

韓国人日本語学習者の「(ら)れる」の使用に見られる誤用分析

許 明 子

1. はじめに

日本語のヴォイス体系の学習は初級から上級に至るまで段階的に様々な誤用が見られ、外国人日本語学習者には習得しにくい文法項目の一つである。受身文の使用は日本語の学習歴や日本語力に関係なく誤用が見られ、初級では受身の形を作る誤用、中級、上級では主語と動作主の関係、自動詞文と受身文の使い方に関する誤用が多く見られ、日本語学習者にとってもっとも習得が難しい文法項目の一つである。

韓国人日本語学習者（以下、韓国人学習者）にとっても、受身文は学習が難しい文法項目の一つであり、誤用が多く現れるが、本稿では韓国人学習者の作文¹に見られる誤用例の分析を通して、受身文を学習する際の問題点について考察を行う。韓国語の被動文²との対照を通して誤用の原因を分析し、受身文の習得における問題点を明らかにすることによって受身文を指導する際の留意点を提案することが本稿の目的である。

2. 自動詞文と受身文の混同による誤用

自動詞・他動詞文と能動文・受身文の使い方による混乱から、自動詞文と受身文の混同、他動詞文と使役文の混同が多く見られる。次の誤用は自・他動詞

¹ 本稿で分析を行った作文は筑波大学留学生センターで行うプレースメントテストの一部であり、作文は15分間与えられたテーマについて自由作文を行ったものである。学習者には個人情報を出さないことを条件に研究の資料として利用することに承諾を得た。

² 韓国語では受身の意味を表わす構文を「受動文」もしくは「被動文」という。本稿では許（2004）にしたがって「被動文」という用語を用いることにする。また、韓国語の被動文の意味的、形態的、構文的特徴については許（2004）を参照されたい。

の区別ができない、もしくは自動詞文を使うべき場面で受身文を使ったために生じた誤用例である。

- (1) たこ焼きの店の前でも、お手洗いの前でも、いつも、いくら長い並びになっても秩序意識をもってちゃんと並んで待っていることを見て、ふと自分の母国のことが孚べられました。³ (中略) 本当に秩序というのはとてもすばらしくて、美しいものだと思います。(2 y, 12/w, 1000 h)⁴
- (2) もちろん、今までやってきたこれらすべてが楽しかったし、いろいろと役に立ったですが、日本にきてからの毎日の楽しみは何といっても歩きます。知らない街のあっちこっちを歩きながら、外国生活の新しさに染められているのです。

これらの2つの作文に見られる誤用はいずれも自動詞構文を使うべきところを「(ら)れる」による受身形を用いたために起こったものである。(1)の「孚べられました」は「浮かんできました」のように、(2)の「染められている」は「染まっている」のように表現すべきところを受身文で表現したことによって生じた誤用である。

このような自動詞文と受身文の混同が多くみられるが、両構文を混同する理由について、筆者は、両構文の意味的、形態的特徴の類似さにあると考えている。つまり、自動詞文と受身文の両構文は動作主の動作そのものよりも、状態の変化や動作の結果の残存に視点が置かれやすいという意味的な特徴が類似していること、また韓国語の場合は自動詞と受身の意味を表わす接辞が非常に類似しているという形態的な特徴から混同が起りやすいと考えられる。上記の(1)と(2)の誤用の例では、前者の意味的な特徴の類似による誤用例が(2)の「染められているのです」であり、後者の形態的な特徴の類似による誤用例が(1)の「孚べられました」であると思われる。

³ 本稿で引用した誤用例は学習者の作文をそのまま引用したものであり、加筆、訂正は行っていない。

⁴ 日本語学習歴について分かっている範囲で調べたものを示す。yは年数、mは月数、/wは一週間当たりの学習時間数、hはおよその総学習時間数を指し示す。つまり、4 y = 4年、12/w = 1週間当たりの日本語学習時間が12時間、1000 h = およその日本語学習総時間数が1000時間程度であることを示す。

(1)の誤用の「浮かべられました」は韓国語の「떠 오르다/teo o-reu-da/⁵ (浮かび上がる)」の自動詞から「떠 올랐습니다/teo ol-las-seum-ni-da/ (浮かんできました)」のように表現したかったものと思われる。「오르다 /o-reu-da/ (浮かぶ)」は自動詞であり、対応する他動詞は「올리다/ol-li-da/ (浮かべる)」であるが、自動詞の接辞「ㄹ/reu/」と、他動詞を表わす接辞を「리/ri/」、さらには被動形を表わす接辞「리/ri/」を混同し、韓国語の自動詞文を日本語では受身文として表現したものと考えられる。韓国人学習者の母語である韓国語の自動詞と他動詞の形態的な特徴の不理解、自動詞の接辞と受身形の接辞を混同したことから日本語の受身文の誤用が生じたものと考えられる。また、(1)の文中に「ふと」という副詞を使用しているにもかかわらず自動詞で表現せず、受身形で表現したことから、自動詞と受身形の混同が誤用の原因であったことが分かる。

次に、(2)の作文に見られる「染められている」は韓国語の「물들이다/muldeul-i-da/ (染まる)」の自動詞に、状態の変化を表わす補助動詞「지다/jida/ (なる)」が接続して、「물들여 지고 있다/muldeul-yeo jigo idda/ (染まっている)」のような状態の変化を表わす自動詞文であるが、日本語では受身文に表現したことによって生じた誤用である。「지다/jida/ (なる)」は固有語動詞に補助動詞として接続し、自動詞の場合は状態の変化を表わし、他動詞の場合は被動形を作ることができる。韓国人学習者の中には、状態の変化を表わす「지다/jida/」構文と被動の意味を表わす「지다/jida/」構文を混同し、それが誤用につながることが多い。

さらに、(2)の誤用は「지다/jida/」の補助動詞の混同だけではなく、日本語の受身文の構文的な特徴の不理解にも誤用の原因がある。「外国生活の新しさ」は状態の変化を引き起こす原因として考えるべきであるが、日本語の受身文における動作主として位置づけていた可能性がある。「染められる」という受身文を使うと「知らない町が私を外国生活の新しさに染める」という動作を私が受けることを表わす表現になるため、不自然な文になる。つまり、受身文において誰が動作を行うのか、誰がその動作を受けるのか、に関する認識が希

⁵ 韓国語のローマ字表記は、韓国の文化観光部告示第2000-8号(2000.7.7)にしたがった。本稿では自動詞、被動の意味を表わす接辞を明確にするため、ローマ字表記の音素間にハイフンを挿入し、必要に応じて太字で記した。また、「ㄹ」のローマ字表記法は、母音の前では「r」、子音の前もしくは終声音(パッチム)では「l」、「ㄹ」は「ll」で表記すると定められている。

薄である可能性が高い。述語が表わす動作について、動作を行う人、動作を受ける人、両者の関係、などについて明確に理解させる必要があるだろう。

自動詞文と受身文の混同は韓国人学習者のみならず、多くの留学生に見られ、日本語の学習が上級まで進んでも生じやすい誤用である。このような誤用を防ぐためには、受身文の意味的な特徴、動作主の有無、主語と動作主との関係を中心とした構文的な特徴について指導する必要がある。つまり、「受身文の主語に立つものが他者の行為によってなんらかの影響を受けた」（寺村 1978）ことを表わす際に受身文が使われやすく、有情物と非情物間の偶然な出来事は受身文ではなく自動詞文を使うよう指導すれば改善が見られるであろう。

3. 韓国語の被動文の形態の複雑さから生じる誤用

3.1 漢語動詞の被動形

韓国語の被動形は、接辞と、固有語動詞+「지다/jida/（なる）」の形で被動の意味を表わすことができることは前述したが、さらに漢語動詞+「되다/deoda/、입다/ipda/、받다/badda/、당하다/danghada/」の形で被動形を表わすことができ⁶、非常に複雑な形態の特徴を有している⁷。特に語彙的な意味によって被動の意味を表わすことができる「되다/deoda/（なる）、입다/ipda/（こうむる）、받다/badda/（受ける）、당하다/danghada/（こうむる、される）」は単独では本動詞としてそれぞれの意味を持って使われるが、「漢語+되다/dae-da/（なる）、입다/ip-da/（こうむる）、당하다/dangha-da/（される）」の形で被動の意味を表わすことがある。

次の(3)(4)の誤用例は受身形の誤用だけではなく、自動詞、他動詞の学習が習熟していないことも原因として考えられるが、(3)は「漢語+되다/deoda/」、(4)は「漢語+입다/ipda/」の形を日本語の受身形に直訳したために生じた誤用である可能性が高い。

⁶ 本稿では、許（2004）に従って、接辞による被動、「固有語動詞+지다/jida/」による被動、漢語動詞+「되다/deoda/、입다/ipda/、받다/badda/、당하다/danghada/」による被動の3つの構文を被動形として認めるが、接辞による被動のみ認める立場の韓国語学者もいる。

⁷ 韓国語の被動形の複雑さは日本語の受身文の学習のみならず、母語の被動文の理解にも影響を与えており、韓国人は被動文の概念が希薄であるとの指摘もある。（許 2001）

(3) 一般的に大学のクラスは9時から初めれる30分から45分くらいが必要です。

(4) 私はまだ自転車が下手なので帰りの途中手にきずつけられました。

(6 y)

(3)は「られる」の誤用のみならず、文全体の意味が理解しにくく、学習者の作文の意図が不明であるが、作文の前後の文脈からは「大学のクラスは9時に始まるので、9時までには大学に来るためには30分から45分くらいの準備時間が必要であり、それによって起床時間が決まる」というものであった。(3)を韓国語で表現すると、「일반적으로 대학의 수업은 9시부터 시작되는 30분에서 40분정도가 필요합니다」となり、「初めれる」は「시작되다/sijak-deoda/ (始作一なる⁸:始まる)」を日本語の受身形にしたものと考えられる。つまり、韓国語の「시작되는」の影響から単純に「되다」を被動文として認識したために起こった誤用であろう。「시작되는」は他動詞の被動形ではなく、「시작하다/sijak-hada/ (始作する:始める)」の対になる自動詞として理解すべきである。

現代韓国語において「되다」文は被動文だけではなく、自動詞構文としても多用されており、「되다」文の過剰使用が一つの問題として指摘されている(許 2004)。「漢語+되다」の形が被動の意味を表わすためには先行する漢語が他動性を帯びた名詞でなければならない⁹。「되다」に先行する名詞が状態性語根であったり、自動性語根である場合は、「되다」が接続されていても被動の意味を表わさず、自動詞構文をなす。韓国人学習者は「되다」動詞文に先行する名詞に関する認識が薄い傾向があるので、特に注意が必要である。

(4)の作文を書いた学習者は日本語学習歴が6年であり、上級まで学習が進んでいる学生である。(4)を韓国語で表現すると、「나는 아직 자전거를 잘 못 타기 때문에 돌아 오는 도중에 손에 상처를 입었습니다。」となり、韓国語の「상처 입다/sangcheo-ipda/ (傷一負う)」という表現から「きずつけられました」のように受身文に表現したのと考えられる。

⁸ 「시작되는/sijak-doeda/」は韓国語の漢語語根「始作」に「되다/doeda/」が接続した自動詞である。「되다/deoda/」が他動詞語根に接続されている場合、「되다/deoda/」を「하다/hada/」に交替するによって他動詞になる。したがって、「시작되는/sijak-doeda/」は「시작하다/sijak-hada/ (始作する)」と対をなしているといえる。

⁹ 漢字語彙の被動形の問題に関しては生越(1982)を参照されたい。

「입다/ipda/」は本動詞として使われる際は「こうむる, 負う, 着る」の意味を表わすが, 「漢語+입다/ipda/」の形で被動形として使われる際は「動作を受ける」という意味を表わすようになる。「漢語+입다/ipda/」が被動の意味を表わすためには接続する漢語が他動性を帯びたもので, 文の主語である「私」は動作主が引き起こす動作の受け手でなければならない。つまり, 「だれかの意図的な行為によって私が傷つけられた」という意味を表わす場合は被動文として成立する。しかし, (4)の文中に動作主は存在せず, また「自転車」は述語が表わす出来事の原因になるものである。(4)のように非情物と有情物の間に偶然に起きた出来事は受身文では表わせず, 自動詞文で表わさなければならない。特に, 「固有語動詞+지다/jida/」の形や, 「漢語動詞+되다/deoda/」の形は自動詞文と混乱が多いので注意が必要である。

3.2 被動の意味を表す接辞

(5) ひるめしの時, 友達といっしょに2学食に行って, おべんとうを賣って外で食べるようになった。きょうの試験問題になにが出るか予想しながら楽しくご飯を食った。その時, いきなり雨が降りはじめた。雨にふられて, かぜをひかれるそうだ。なんか悪いことが起きそうなかんじだった。

この誤用例では「雨にふられて」の自動詞による「迷惑の受身」は正しく使われているが, 「かぜをひかれる」のような誤用が見られた。「かぜをひかれる」のような誤用が現れた原因は接辞「리/li/」の意味の混同と, 受身文の過剰使用の2つが考えられる。

まず, 「かぜをひかれる」を韓国語では「감기에 걸리다/gamgi-e geol-li-da/ 感氣一にかかる (風邪をひく)」と表現するが, 「걸리다/geol-li-da/」の中の接辞「리/li/」を被動の意味を表わす接辞と混同した可能性がある。前述したように, 接辞「리/li/」は他動詞を表わす接辞として使われる場合と, 他動詞の被動形を作る接辞として使われる場合があるが, 「雨にふられて」という自動詞の受身文につられて「ひかれる」も受身文を作った可能性がある。

一方, 受身文の過剰使用も韓国人学習者に多く見られる誤用の傾向であるが, その理由は韓国の日本語教科書で扱われている日本語の受身文の特徴に関する記述が原因の一つとしてあげられる。韓国の日本語教育現場で使用されている日本語教科書には「迷惑の受身は日本語特有の表現であり, 被害の意味を表わ

す際には必ず受身文が使われる」という記述が多く、迷惑の受身、自動詞の受身の使用が強調されている(許 2002)。特に、「なんか悪いことが起きそうな感じだった」のような状況説明が付け加えられており、迷惑の意味を表わそうとして受身文を使用した可能性が高い。迷惑の受身文を指導に当たっては学習者に「(ら)れる」の過剰使用に注意が必要である。

3.3 「見る・見せる・見える・見られる」の誤用

- (6) 筑波大学生の生活の中で、起きる時間とねる時間に関したこのグラフは大体の学生がふつうの人の生活習慣とあまり変わらないのを見せる。
 (7) でも、グラフに見せられる時間が4時とか夜2時の方があるのを見る時、夜遅くまで勉強する学生達がたくさんあると思います。ねるの時間を見ると50%の学生たちが、1時に寝るの事を知られます。

「見る／見える／見せる／見られる」の使用に関する誤用は韓国人学習者のみならず多くの外国人日本語学習者に見られる誤用であるが、「見られる」と表現すべきところを「見せる」と表現する誤用は韓国人特有のものである。韓国語の「보이다 /boida/」は「見える、見られる、見せる」などの意味を持っており、文脈によってその意味を判断しなければならない。「보이다 /boida/」が「見せる」の意味を表わす際には「보여 주다/boyeo-juda/ (見せてあげる、見せてくれる)」と同じ意味になり、「보이다 /boida/」と言い換えることができるが、その他にも「可能・自発・被動・使役」の意味をも表わすことができる。「보이다 /boida/」がどのような意味を表わすかは文脈によって判断するしかないため、特に誤用につながりやすい。

(6)を韓国語に対訳すると、「츠크바대학의 생활 중에서, 일어나는 시간과 자는 시간에 관한 이 그래프는 대체로 학생이 보통 사람의 생활습관과 별로 다르지 않다는 것을 보여준다.」となり、「見せる」は「보여준다/boyeo-jun-da/ (見せてくれる)」の意味として自然な文となる。しかし、日本語では「グラフが意図的にデータの結果を見せる」の意味になるため不自然になった例であり、韓国語の「보이다 /boida/」の複雑な使い方の影響を強く受けている例であるといえる。

(7)は(6)と同じように、「보이다 /boida/」の意味の複雑さが原因で、「見られる」を「見せられる」と表現したことで生じた誤用である。「보다 /boda/ (見る)」は被動の意味を表わす接辞「이/i/」と接続して、被動の意味を表わすことができる。しかし、(7)は「보이다 /boida/」を「見せる」の意味として解釈

し、「られる」を接続して受身形を作ったために生じた誤用であると思われる。この誤用の原因を韓国語で考えると、(7)では「보이다 /boida/」が被動の意味を表わしているが、さらに固有語動詞の被動の意味を表わす際に使う「지다 /jida / (なる)」という補助動詞を接続して、二重被動形にしたために生じた誤用である。しかし、(7)を韓国語に対訳すると「그래프에 보여지는 시간이 4 시라든가 밤 2 시 쪽이 있는 것을 볼 때, 밤 늦게 까지 공부하는 학생이 많이 있다고 생각합니다。」となり、「보여지다 /boyeo-ji-da/ (見せられる)」の二重被動文でも自然な文として使うことができる。

(7)では「分かります」に表現されるべきところに「知られます」と表現されているが、「知る」と「分かる」も語彙の問題とともに受身文の成否に関する動詞の制約について未修得であるために起こった問題である。「知る」と「分かる」は韓国語では両方とも「알다 /allda/」であり、語彙的な意味の区別ができないことが誤用の原因であろう。また、日本語の状態動詞、可能の意味を含む動詞は受身形が作れないという受身文の成否に関する特徴の不理解も「知られます」という誤用を引き起こした原因である。

4. 受身文の語用的特徴の不理解による誤用

次の2例は、受身文を使うべきところで能動文を使ったために起こった誤用である。

(8) だれかが私に趣味が何かと聞く時、私は何を話すことがいいだろうかと思うようになる。

(9) 幼ない頃から、その時、その時によっていろんな物をあつめました。
たとえて言うときれいなリボンとかキャンディーの絵がえかいている紙と言うものです。

(8)は前件と後件の主語が一致していないために非文になった例である。複文の前件と後件の主語を一致させる際に受身文が使われるが、この学習者は受身文の語用的な特徴を理解していなかったのであろう。「私」を主語に据えて、「誰かに～聞かれたら、～」のような文型を学習すれば改善される誤用であると思われる。また、文の主語が「私」である場合、明記せず省略するのが一般的であり、前件の「私に」と後件の「私は」を省略するように指導したほうがいだろう。

(9)は、「絵」を主格に据えているため、「えがく」という述語動詞を行う不特定人物の行為によってもたらされる結果として、「描かれている」の受身文を使うべきである。動作主が明確でないか、もしくは表現する必要がない場合には受身文が使われるが、能動文で表現したために生じた誤用である。これらの2例のような受身文の誤用は語用的特徴を学習すれば改善が期待されるであろう。したがって、受身文を指導する際に誤用の原因を把握し、的確に指導することが重要である。

5. おわりに

本稿では韓国人学習者の作文の中で「(ら)れる」の使用に見られる誤用を中心にその原因について分析を行った。日本語の受身文の誤用は日本語の学習期間や学習レベルに関係なく現れており、韓国語の影響による誤用と思われるものもあれば、日本語の受身文の意味的、構文的特徴が十分に理解されずに誤用につながった例もある。

本稿の結論として、誤用の原因をまとめ、これらの誤用を防ぐための指導法を提案したい。

(1) 自動詞文を使うべきところに受身形を使う。

⇒受身文は動作主(主に有情物)の働きかけにより、主語に立つものが影響を受けた結果を表わす際に用いられる構文であり、自動詞文は主に行為の対象となるものの状態の変化を表わす際に用いられる。動作を受けた客体(有情物)が主語になる場合でも、行為を行った動作主が明確でないか特定できない、または関心がない場合は自動詞文を用いる。また、自動詞と他動詞の対を中心に語彙の指導を行う。

(2) 非情物が主語、有情物が動作を受ける客体の構文が多い。

⇒有情物と非情物の間に起こった出来事を表わす際には、有情物を主語に据えたほうがより自然に感じられる。日本の日常生活で使われている受身文の8割以上が有情物間の出来事について視点の移動を表わす際に用いられている(許 2004: 132)。非情物が主語になる受身文は、動作主が不特定多数(もしくは個人)であったり、動作主に関心がなかったり、動作主が明確な場合などであるときに使われるという語用的特徴を理解させる。

(3) 韓国語の被動形の複雑さによる誤用

⇒韓国語の被動文の形態的、構文的な特徴を十分に理解していないために、

韓国語では自動詞文でも日本語では受身文で表わす誤用が多い。韓国語の「이/히/리/기, 되다, 지다, 받다, 입다, 당하다」を中心とする被動文と自動詞文を比較させ、受身文と能動文の意味的、構文的特徴が理解できるように指導する。また、被害の意味を表わす受身文の過剰使用に注意を払い、「～てしまう、～てもらう」の補助動詞による表現と関連させて「迷惑の受身」の意味的特徴について指導する。

(4) 受身文の語用的特徴の不理解による誤用

⇒韓国人学習者の作文には受身文の主語が非情物で有情物が動作主になっている例が多く見られる。また、複文の場合、前件と後件の主語が一致しておらず、能動文と受身文が混在している例も多く見られる。これらの誤用は日本語の構文的な特徴とともに、受身文の語用的な特徴を理解させれば改善が期待されるだろう。

以上、韓国人学習者の作文に見られる受身文の誤用の原因について分析を行い、受身文を学習する際の問題点を指摘するとともに、改善するための注意点について提案を行った。本稿では日本語の学習段階と誤用の原因と問題点については触れなかったが、学習段階による誤用の原因、問題点、改善策などについては稿を改めて報告する。

参考文献

- 市川保子 (1997) 『日本語誤用例分小辞典』 凡人社
 生越直樹 (1982) 「日本語漢語動詞における能動と受動——朝鮮語 hata 動詞との対照」 『日本語教育』 第48号, 日本語教育学会
 寺村秀夫 (1982) 『日本語のシンタクスと意味 I』 くろしお出版
 寺村秀夫他編 (1987) 『ケーススタディ 日本文法』 おうふう
 仁田義雄編 (1991) 『日本語のヴォイスと他動性』 くろしお出版
 許明子 (2000) 「テモラウ文と受身文の関係について」 『日本語教育』 第105号, 日本語教育学会
 許明子 (2001) 「韓国語の被動文の語用的特徴について」 『梅田博之教授古稀記念韓日語文学論叢』 太学社
 許明子 (2002) 「韓国で使われている日本語教科書における受身文について」 『筑波大学留学生センター 日本語教育論集』 第17号, 筑波大学留学生センター
 許明子 (2004) 『日本語と韓国語の受身文の対照研究』 ひつじ書房
 日本語教育指導参考書 4 (1978) 『日本語の文法 (上)』 国立国語研究所

*付記：本稿は2006年6月16日～17日に韓国青洲大学校にて行われた韓国日語日文学会夏期国際学術大会で行った口頭発表の一部を加筆修正したものである。